

研究所情報

秋季 通巻27号

編集・発行 長崎県部落史研究所

2003年10月31日

セミナー〈企業と人権〉前期日程(9/4)・後期日程(10/16) が終了しました!

長崎県・長崎市主催、研究所が企画・運営をしましたセミナー「企業と人権」の全日程が終了しました。長崎県では、このような企画は初めてのことでどのくらいの企業に参加していただけるか、不安を持ってのスタートでしたが、呼びかけに長崎市内から40数社のご参加をいただくことができました。大変ありがとうございました。

このセミナー開催の経緯は、二年前長崎県が行った人権意識調査において、「企業に勤める人」が、他に比べて人権問題に、若干無関心であるという結果が出ました。また、数年前、県内に本社を置くある企業が、他県で部落差別に係わる事件を起こしました。部落所在調査を行ったのです。これら

の事から、企業に対する人権啓発の必要性が叫ばれました。さらに、昨今人権の観点から企業経営を見直していこうとする機運が全国的に高まっており、企業の社会的貢献という言葉が使われるようになりました。



(田中昭紘氏)



(中田慶子氏)

セミナーでは、まず学び として、大阪同和・人権問題企業連絡会の理事長をされている田中昭紘氏(カネボウ株式会社)に、「企業が何故人権問題に取り組むのか」という発題をして頂きました。カネボウでは88年、黒人差別につながる表現を用いたガムを販売し、抗議を受け回収したこと、その後大阪同和問題企業連絡会に加入し一貫した同和・人権問題への取り組みを、わかりやすく、力強くお話しされました。

学び では、「『私』のない私」というビデオを使ったワークショップが行われ、日常の何気ない会話の中に潜む人権侵害の事例を考えることができました。学び では、中田慶子氏(DV 防止ながさき)には、「女性の人権を考えるーセク

コラム

「しない決意とさせない勇気 気持ちだけでは無くせぬ差別 気づいたその時実行へ今日、一ヶ月ぶりにフィールドワークが行われた。大阪同和・人権企業連絡会第4グループの研修である。総勢11名。いただいた広報誌(ホットライン21)の裏面に書かれていた言葉である。同企連は、差別を「現地に学ぶ」ために例年各地を訪れ研修を行っている。11月にかけて、更に3グループが訪れることになっている。秋晴れの半日、崇福寺から、26聖人殉教地を経て、浦上へ部落移転の跡をたどり、キリシタンや原爆の長崎史に思いをはせる。そこには、人権の確立・平和希求という長崎の願いがある。夜は、新地中華街、そこにも長崎の歴史と味があった。(あ)

ハラやDVなどの視点から」というテーマで、なぜセクハラが起きるのか、人権概念の拡大の中でこれまで疑問に思わなかったものが人権侵害と認識されるようになった、女性の人権侵害の特徴として被害者が責められること、DV（ドメスティックバイオレンス）を容認する社会的要因があることなど、お話ししていただきました。



（福崎博孝氏）

後期日程の学び では、弁護士の福崎博孝氏より、「企業の社会的責任と消費者の権利」のテーマでお話しいただきました。福崎氏は、コーポレート・ガバナンス（会社は誰のものか）という考え方を、アメリカ型、ヨーロッパ型にわけ、前者は株主のもの、後者は「消費者や従業員、国家、地球環境などにバランスよく付加価値を配分する経営」とし、日本はヨーロッパ型に変化させる必要を訴えました。また、「消費者関連専門家会議2000年宣言」（コンプライアンス宣言）を紹介され、企業の憲法にと呼びかけました。宣言の前文には、「企業を取り巻く環境は、今、大きく変化

しています。この激動の時代にあって、消費者の声に耳を傾けずして企業の生き残れる道はありません。」とあります（コンプライアンス：遵守）。

学び では、NTT ビジネスアソシエ大分から人権啓発担当の諸富幹夫氏にお出でいただき、職場研修の事例報告を行っていただきました。NTT 大分、また大分県人権啓発商工連絡会（県）・大分市人権・同和教育推進連絡協議会（市）の人権・同和问题への取り組みの現状が報告され、取り組む意義として、

有能な人材の確保 職場の人間関係 顧客との人間関係 商品の開発やサービスの向上 企業の社会的責任 企業イメージの向上などをあげました。

学び では、県人権教の石村榮一氏をコーディネーターに、グループ構成で前期日程・後期日程を通した感想をお互い述べ合い、終了しました。今後の取り組みに期待したいと思います。

<参加者の声>

* 実際にあった事例を話されたのでわかりやすかった。企業は事業展開を行う時は、人権がいかに大事かということ、企業は色々な人権問題に対応していかなければならないと教えられた。企業はナンバーワンでなく、オンリーワンでよい。まさにその通りである。

* DV・セクハラについては、加害者にすべての責任があると思う。社内についても罰則を強化すること、全社員へのDV・セクハラについての学習が必要かと考えます。

* 自分には人権侵害など無縁だと思っていたが、じょろの話等を聞くと、どきっとしました。相手の立場に立って考え行動することが、人間としての基本だと改めて感じました。



（諸富幹夫氏）

長崎県が人権啓発センター設置へ（9/20・長崎新聞）

長崎県は、05年4月、人権啓発センターを出島港湾ビル内に設立することになりました。今年5月「人権啓発センターの新設」を謳った、県人権教育推進懇話会の意見書を受けたもので、新聞紙上では、県民に対する人権問題の啓発・広報活動、相談や情報の提供、人権問題の調査研究活動、企業団体職員や社会教育関係者・行政職員を対象にした教育研修を行うとあります。

先の意見書では、「人権教育のための国連10年」長崎県行動計画の見直しが審議され、重要課題として、女性・子ども・高齢者・障害者・外国人・同和问题・HIV感染者・犯罪被害者等の人権課題の解決に向けてさまざまな提言が行われています。センター設立によってその役割が期待されます。

もやい (ながさき部落解放研究) 第46号を発売

2003.10.31

特集 < 部落問題と人権を考える > 講座・2003

金 泰泳 アイデンティティ・ポリティクスを超えて
- 在日韓国・朝鮮人の現状と今後

西尾 紀臣 人権啓発センターと私

池田 芳信 ホームページを活用するために

阿南 重幸 貿易都市長崎と「かわた」集団

中村 久子 史料紹介 (その2)

「皮類寄」(県立長崎図書館・永見文書)

頒価 700円

【今秋の研修・講演会、フィールドワーク (予定含)】

* は県外

(03 / 9月 ~ 11月)

月	日	場 所	名 前	主 催
9	4	長崎県勤労福祉会館	セミナー「企業と人権」	長崎県・長崎市
	8	長崎銀屋町教会	部キ連九州研修会	部キ連九州
	17	フィールドワーク	「原爆・部落・キリシタン」	浄土宗同和推進事務局
	18	フィールドワーク	「長崎の部落史を歩く」	浄土宗同和推進事務局
	25	長崎県教育文化会館	部落解放学習会	長崎市人権教・他
10	16	長崎県勤労福祉会館	セミナー「企業と人権」	長崎県・長崎市
	20	長崎市民会館	初任者教員研修	長崎市教育委員会
	23	フィールドワーク	「長崎の部落史を歩く」	大阪同和・人権企業連
	30	フィールドワーク	「長崎の部落史を歩く」	伊万里市教育委員会
11	5	フィールドワーク	「長崎の部落史を歩く」	多久市教育委員会
	6	フィールドワーク	「長崎の部落史を歩く」	大阪同和・人権企業連
	11	フィールドワーク	「長崎の部落史を歩く」	西中国部落問題特委
	13	フィールドワーク	「長崎の部落史を歩く」	佐賀県私学協会
	15	大分県教育会館	人権啓発講座	大分県部落史研究会
	16	フィールドワーク	「長崎の部落史を歩く」	筑紫野市教育委員会
	17	フィールドワーク	「長崎の部落史を歩く」	長崎市校長会
	17	フィールドワーク	「原爆・部落・キリシタン」	大阪同和・人権企業連
	18	フィールドワーク	「長崎の部落史を歩く」	大阪同和・人権企業連
	19	長崎市民会館	人権同和教育講演会	教育研究会社会科部会
	26	フィールドワーク	「原爆・部落・キリシタン」	大阪同和・人権企業連

最近の受入図書 (は寄贈)

- ビデオ『新・共生への道』((社)北海道ウタリ協会)
『近代に生きる人びと』(京都部落史研究所編, 阿吡社, 94.4)
『洛中洛外図屏風を読む』(水藤真, (財)歴史民族博物館振興会, 99.7)
『屏風絵の中の近世日本と世界』(小出宗治, (財)歴史民族博物館振興会, 02.2)
『鎖国・長崎貿易の華』(神戸市立博物館, 94.7)
『切支丹伝道の興廃』(姉崎正治, 同文館, 30.6)

(定期刊行物)

- 『解放教育』第428号~431号((財)解放教育研究所)
『明日を拓く』第50号(東日本部落解放研究所, 03.3)
『部落解放』520号~524号(解放出版社)
『ヒューマンライツ』No.184~187号(部落解放・人権研究所)
『部落解放研究』第153・154号(部落解放・人権研究所)
『こべる』No.125~127(こべる刊行会)
『ひょうご部落解放』第110号(ひょうご部落解放・人権研究所, 03.9)
『部落問題研究』第165号(部落問題研究所, 03.7)
『人権と部落問題』No705~708(部落問題研究所)

(このコーナーは受入図書の一部です。)

研究所刊行図書 発売中

- 『教材資料集「・・・を50分で学習する」』
参加型学習の展開と、「人権」を考える授業
1500円 (B5版, 100頁, 02.5)
『部落問題と人権のいま』 考え・学習する視点
熊本理抄・外川正明・藤澤秀雄著
700円 (A6版, 110頁, 02.10)
『ふるさとは一瞬に消えた』
研究所編 解放出版社 1751円 (A6版, 187頁, 95.10)
『論集長崎の部落史と部落問題』
3500円 (A5版, 376頁, 98.3)
他、HPでお知らせしています。

【お知らせ】

第29回長崎県人権教育研究大会

期日:10月30日(木)31日(金)

場所:シーハット大村・コミュニティーセンター

参加費:1500円

記念講演 「人生を楽しくする方程式」 ピーター・フランク

分科会 基礎講座
教育内容の創造
自主活動と仲間づくり
進路・学力保障
社会啓発

じんけんの広場と夕べ 他

ながさき人権講座 落語家 露の新治

・11月11日(火) 14:00 ~ 16:00

アルカス SASEBO

・11月12日(水) 14:00 ~ 16:00

島原文化会館

・12月2日(火) 14:00 ~ 16:00

メルカつきまち

・12月3日(水) 14:00 ~ 16:00

福江文化会館

ながさき人権フェスティバル

期日:12月6日(土) 10:00 ~ 16:00

場所:シーハットおおむら

講演:福島敦子(ジャーナリスト) 13:00 ~

テーマ:私の取材手帳から

~ 十人十色の素敵さ ~

コンサート:サムシングエルス 15:00 ~

パネル展・人権標語作品展・ピアノと読み聞かせコーナー

(手話通訳・託児所有)

長崎県部落史研究所

〒850-0048 長崎市上銭座町2番7号 Tel:095(847)8690 Fax:095(847)8696

E-mail anan@sings.jp URL <http://homepage3.nifty.com/naga-humanrights/>